



発行所
燎原社

〒606 京都市左京区
東竹屋町・川端東入る
部落問題研究所内
電話 京都761-2141番
振替口座京都 15762番
発行人
木村 京太郎
頒価 1部 200円(元共)
年 2,000円

暑中お伺い申上げます

一九八一年 盛夏



夏の風物詩
石田昭子画

京都の民主運動史を語る会

あつさきびしい折柄、かも川の涼風をうけて左記の通り研究例会をひらきます。
多數ご出席ください。

と き 七月二三日(木) 午後一時半より
と こ ろ 中京区竹屋町通原町東入る
テ ー マ 京都都市職員会館 “かみがわ”
戦後京都の民主統一運動について
ゲ ス ト 梅 林 信 一(元京都官公労議長)
“ ” 浅 川 享 式(元京都産別議長)
“ ” 小 川 広 之 介 式(元京都總同盟總主事)
な お、 当 日 午 後 四 時 か ら 同 会 場 で “故井垣次光
氏を偲ぶ会”をひらきます。多數ご出席をお願い
申上げます。

参 加 費 一名につき五〇〇円(茶菓料とも)

第17回 研究例会

(故井垣次光氏を偲ぶ会)

京都の民主運動史を語る会

大岡井斎西細品井塩木稻山北住

原谷上藤村川角上田村田田牧谷

健元秀雷清三小喜庄京達幸孝悅

次治雄郎三酉文松衛郎夫次三治

ウソとタテマエの政治は

平和と民主主義の危機

日本共同声明

日本共同声明、日本の核配備など日本の将来と国民生活を左右する問題がつづいている。マスクミ連日これをとりあげ、国会でももちろん論議されたものの一向にスッキリしない。

憲法四十一條で国会は國權の最高機關であると定められているのにかゝわらず、いくら追及されても歯切れが悪いのであるから国民がライライとしているのも無理のない話である。

一国の総理大臣と大統領が共同声明を出しておいて帰國すると中味が気に喰わないような言動をしたり、同行していた外務大臣が帰国して早々に辞任したり、そのあと他の外務大臣が共同声明ではないから拘束力はないとも受取れる発言をしてみたり、何が真実であり、それがホントで、それがタメエであるのか、わかりにくいだから外国人の人にわかる筈もなく、これでは経済大国とか云われても、外交も政治も發展途上国としか映らないである。声明が気に喰わないならむしろ最初から声明しない方がよいし、共同声明は効果がないとするなら国民の税金を使つて大勢が出来かかる必要もあるまい。またあとで証明や解説がいるようなことは政治家として避けるべきである。

核の持込みについて

核の日本持込みについても、かつてのアメリカの政府機関の人や軍の関係者までが日本に核が授込まれていたと証言している。しかしアメリカの政府機関の人が云うのには、今では民間の人の云う話だから責任はもてないといふことである。国民が問題にしているのは責任の有無でなく事実かどうかである。アメリカは日本に核はないと言ふが、一方では核が持込まれているが、一方では核が持込まれないと積極的に宣伝しているようにも見受けられる。だから日本政府に事実を確めて欲しいと云っているのであり、ハッキリさせることは政府の責任である。

病めるアメリカ

我々はあくまで眞実を追及する努力を惜んではならないが、眞実が明らかになつた頃に日本の軍事力強化も、核の配備も終えて言論や集会の自由もなくなつていては手遅れである。

そこで日本の政府が確かめようとせず、日本から見てわかりにくければアメリカの立場から日本を見るとわかりやすい。アメリカは戦後三十五年を経てアメリカにホンネ、日本にタテマエということならサカサマである。

ウソとタテマエで政治が動かされるところが見本となつて行政、団体、企業、個人に及び政治への不信は世の中に対する不信となり、人間不信にまで織、軍拡の資料が大パネルで展示されている。

とくに、本会員の画家伊達義三郎氏作の『さがしものありと誘い夜の藏』で、明日征く夫は吾を抱きしむ』をモチーフに描かれた一〇〇号画版(戦争のためのオリジナル)が異彩を放っている。(戦争展ニュースより)

に肩替りすることである。勿論経済面だけでなく軍事面もある。外国が攻めてくると云つて国内を治めるやり方は最も安易なやり方である。

主義が眞実の上に築かれるることは歴史の証言である。(稻田達夫)

平和のための戦争展

対日赤字が貿易赤字の半分以上を占めおり、しかも急速に増大していることである。以上の点だけを考えて見ても、兵器が原子力か余剰産物を日本に買って欲しいということになるのは予想されて当然である。

もう一つ注目されるのはアメリカの太平洋に浮ぶ航空母艦のような日本列島は極めて好都合である。そこを基地にして核を配備しておけばアメリカ本土は攻撃されずすむということにもなる。

もう一つ注目されるのはアメリカの政治からも外國からも信頼をするかをハッキリさせることが政府の責任である。

アメリカの事情がわかれればこれに対しても政治、経済、外交などでどう対処するかをハッキリさせることが政府の責任である。

政治からウソを追放しよう

ウソは国民からも外國からも信頼を失うものである。ホンネとタテマエと云うがこれは一つの事実をどう見るかであつて、もし事実が二つとなればウソとホントと云うべきであろう。ましてアメリカにホンネ、日本にタテマエということならサカサマである。

ギオンの舞子さんたちの献金でつくられた戦闘機「ギオン甲号」甲種飛行予科連第三期の卒業記念アルバムその他、企業整備で転廃業させられた西陣織、軍拡の資料が大パネルで展示されている。

京都はアメリカ軍の特別の配慮で戦禍から免れたよう伝えられているが、京都東山馬町、舞鶴など府下における空襲の惨状とギセイが如実に示されている。

京都はアメリカ軍の特別の配慮で戦禍から免れたよう伝えられているが、京都東山馬町、舞鶴など府下における空襲の惨状とギセイが如実に示されている。

とくに、本会員の画家伊達義三郎氏作の『さがしものありと誘い夜の藏』で、明日征く夫は吾を抱きしむ』をモチーフに描かれた一〇〇号画版(戦争のためのオリジナル)が異彩を放っている。(戦争展ニュースより)

“燎原”誌編集の

井垣次光氏の訃を悼む

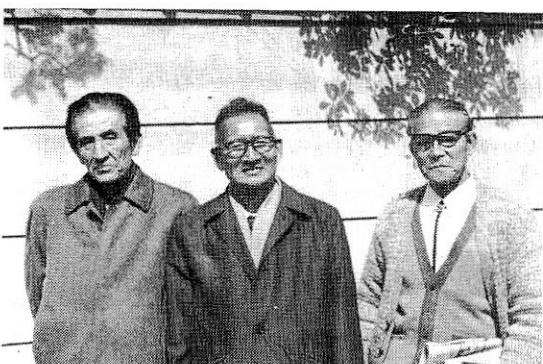
一昨年の「山宣五〇年祭」「河上肇生誕」〇〇年祭を契機に、京都で盛り立った「京都民主運動史を語る会」のメンバーとして、とくに会誌「燎原」の編集に全力投球されていた井垣次光氏は本年四月京都鞍馬口病院で加療中、白血病のために府立医大病院に移り、快癒退院を鶴首していたが、その望みも空しく、六月一二日惜しくも永眠された。

葬儀は翌十三日雨中を左京区黒谷の真如堂内の吉祥院で営まれ、親族、知友多數に見送られて、不阪の客となられた。

私たちは、故人の遺志について、京都における民主主義の回復発展のためにさらに前進することを誓い、故人の御冥福を祈る。

故井垣次光君を偲ぶ

井上秀雄



ありし日の井垣次光氏（左端）中央
木村京太郎氏、右端住谷悦治先生、
一九八一年三月 住谷先生宅前

『煙草を止めたんだよ』『君も止めよ』
と彼は私に強要したものである。
彼は自分の集めた資料の正確を期す
るため、東京、埼玉までも知友を訪ね
て歩いた。

を得たことである
今から思えば彼
残された生命と、へ
活かされ得なかつ
力をかけて、死の
たのだと思える。
成年の長男を失
しさ、口惜しさと
める愛妻を遺して
として井垣氏の思

を失くしたとき——この悲
きと泣いた彼、そして病
して逝った彼、晩年の友
の思い出は涙が尽きない。
(一九八一・七・一二)

「また」とひと言残して彼は岡崎道と元気のなかつた彼は、地区委員会の会議の席上でも青い顔をして壁にもまれ、足を投げ出して座つていた。そしてよく、会議と関係のないロシア語の本なんか読んでいた。

その彼が自分の持つ能力を全力投球して活動したのは府委員会の一党史へんさん委員としての任務についた時からであろう。私も彼と一緒に府下をはじめ大阪、岐阜など、テープコーダーを持って走り廻つた。それは前に岡崎道で「また」といって別れ

自分が納得ゆくまで追求するので、そのためによく本を読んだ。バスの中で、病床にあっても、少しでも時間があれば本を開いている。どこへ行く時でも、本や資料のすつしり詰った鞄を肩にかけて歩る。『重くないの』と訊くと、『慣れっこだね』『本の重さは気にならないよ』、他地方へ行った時の昼食代はケチルが、必要な本であれば高価なものでも平気で買う。彼はそういう人であった。彼が水を得た魚のように元氣で活動し出したのは、さきに述べた党資料集めに始まって、河上会、山宣会の世話人、そして『燎原』の編集は、彼にとって最も適した仕事

見ると太い赤線で囲まれた『井垣次光流』の名がある。「水戸高校を放り出されて東京へ走ったころだ。四・一六直の頃かな。当時の活動家は知名人をいて、余り大衆的な評価を得なかつて、彼が自分の名前がゴシック太で印刷されているので、自分の身分明みたいに、大事に持っていたのだう。彼は自分の戦前の活動の証明を関心を持つて見て、今もなお党活動を行っている自分を喜んでくれる人以外

のこと、第二は当時京都で指導していたと思われる小西政雄氏と連絡することと第三には京都における多数派活動のこと、以上の三点を何とか明らかにしたいと、要望がのべられている。このうち第二の事については、彼が小西氏と連絡がつき次第、私も同道して高松へ行こうと、前から話し合っていた問題で、だからこのことは勿論、第一、第三の事も私等の責任においてなし遂げたいと思っている。

井垣次光氏より さいごの便り

『聴き書き屋』に感動

大阪 寺嶋二郎

井垣さん遺稿をよんで

京都 細迫朝夫

「燎原」同人御一様その後御元氣の模様何よりと喜んでいます。小生快方に日に日に向いていますが、酸素欠乏、赤血球欠乏症にて、今一つ歩行思うにまかせず、早くご一同にお会いしく一日千秋の思いです。皆さまにご伝言下さい。

新しい「燎原」できましたら、二〇部ほどおついでの折、どなたでも、病院宛お届け願えれば幸です。ご自愛専一に勿々。

京都市上京区河原町広小路。
京都府立病院にて

『燎原』を毎号楽しく拝読しています。第一六号の井垣さんの『聴き書き屋の弁』に感動しました。それは次三点です。

(1)『燎原』の記事は読者としてふる立たせるものを持ち、革新統一戦線の戦力として役立つものでなければならぬ。と規定していること。

(2)ゲストを選ぶに当つて、面白さ

人柄から云つて、この時期に特高が目を付ける程の思想的な具体的行動を取ることは思えない、私自身、社会運動に少しも関心のないこと、これからも生活動第一で行くことを告げて断つた。私は気になるので、滝川さんの秘書に会つて、特高が目をつけているらしいで、充分気を付けるよう注意した。早速く、岡田さんは私の家にやつて來た。岡田さんに特高が来たことは云わなかつたが、あなたや滝川さん、その人々にも、特高は目をつけて居るのであるから、くれぐれも気を付けるようによつた。

十人位集つてしかしこれは

人間の心に定着しないと云うことである。

友人の世話で結婚、長男が生れて平穀な時が過ぎた。昭和二十年一月、大阪へ初めてアメリカの飛行機が空襲、私の家の近くに爆弾が落ちて死傷者が出了。私の家も少し壊れたが幸に怪我はなかつた。間もなく運悪く徴用に取られた。暗い時代に合せて旗をふつて居るが、この人達の間には、反軍的色調はじみ出で居た。

正常な語学の研究会であつて、思想的なものではない。私もさそわれたが、私は特高に、滝川さんや岡田さん参加しなかつた。

隨筆『土曜日』以後 (6)

斎藤雷太郎…

滝川さんは、大阪中之島の朝日ビルの中に法律事務所を持つっていた。私も二、三度行つたことがある。その事務所で岡田さんを講師にして、中国語の研究会のようなことをして居た。

滝川さんは、大阪中之島の朝日ビルの中に法律事務所を持つっていた。私も二、三度行つたことがある。その事務所で岡田さんを講師にして、中国語の研究会のようなことをして居た。

私は気に入るのでは、滝川さんの秘書に会つて、特高が目をつけているらしいで、充分気を付けるよう注意した。早速く、岡田さんは私の家にやつて來た。岡田さんに特高が来たことは云わなかつたが、あなたや滝川さん、その人々にも、特高は目をつけて居るのであるから、くれぐれも気を付けるようによつた。

特高はなぜ私をえらんだのか、戦況の悪さの反映か、当時の特高は思想の輪を広げて、穩健な自由主義的な人々をも、抑圧しようと企らんで居た。そこを会場にして鐘紡社長の武藤山治の流れをくむ人々が、何人か集つて弁論研究会をやつて居た。活動家の多くは統制経済になじまない、中小企業の人達のようであった。政党政小の時代がかならず来ると信じて居て、他の人々にも、特高は目をつけて居るのであるから、くれぐれも気を付けるようによつた。

街中の教会に集るクリスチヤン達の間にも厭戦的なものはひそんで居て、反軍的な傾向は感じられた。いくら強権で押し付けても、反理性的なものはない。私もさそわれたが、私は特高に、滝川さんや岡田さん参加しなかつた。

(以下次号)

大衆受けに走らず原則性を堅持していること。

(3) 事実の展示でなく、真実の追求(発見)を目指していること。以上

附記

一九四九年の公務員労働者のレッド・ページについて事実でなく、『真実』を書いてみて送りたいと思っていました。

老いたむ 79才を迎えて

……しわはよる、ほくろができる。腰が曲がる、ひげ白くなり、足はよろめく、歯が抜ける。耳はきこえず手はふるる、目はうとくなる。

身に添うはづきん・えり巻き・杖・目鏡・湯たんぽ・おんじやく・しゆびん・孫の手。

ききたがる・死にともながる・さびしがる。こころが曲がる。欲ぶかくなる。ぐらっぽくて出しやぱりたがる。他人の世話をやきたがる。またしても同じ話で子をほめる。達者でひとはいやがる。げに物憂きは老にぞありける。

数年前 95 才の長寿を終えた私の先輩から、『めしひでも心のまなこひらかせて明るく清く世を送りなん。』と書き送られた先人のとなりが偲ばれます。(K生)

第16回研究会報告——

京都の文化運動を語る

大阪 大岡欣次氏談

京都は千年の都で、文化の中心地である。六月二〇日午後一時半から、京都市職員会館で開いた本会の第一回研究例会のテーマは「京都の文化運動」についてであった。当日は戦前戦後京都での文化運動の一翼を担つた、部落問題研究所理事長藤谷俊雄氏をゲストに迎えたが、之に先立ち北牧氏の紹介で、堺市に住む大岡欣次氏から、「京都における演劇運動についての思い出」を語つてもらった。まづ、大岡氏のお話を！

なお本号から話のあらましを逝き井垣次光氏に代り、井上秀雄氏を煩わすこととした。

京都での新劇活動について

私の新劇活動

私が演劇活動に入ったのは、ちょうど同志社在学中ですから、正に京都を出発点として約五〇年ほど活動を続けていることになります。しかしあだやりたいことが沢山あるが、もう年が年ですからあと何年やれるか、がんばりつけたいと思っています。

しかし今何とかまとめておきたいのは、関西における新劇運動の歴史です。私たちの機関誌である「演劇と会議」に、現在第三五回、五〇〇枚を書いています。そのあと「プロレタリヤ演劇運動時代」が終り、その後の運動形体について、せめて敗戦に至るまで書き続けたいと思っております。

その中で特に「京都青服劇場」の昭和四年から全六年までの記録を四回に

わけて連載しています。機会がありますから参考にお読みください。特に京都の運動をまとめるきっかけをつくって頂いたのは「京都民報」です。

京都近代史の足あと

「京都民報」が先きに「京都近代史の足跡」という読みものを出されたとき、その続きを誰がよからうかと相談があり、西村庄之助さんを推薦したんですが、すでに亡くなつてることで止むを得ず私の持っている資料により、京都民報に三回にわたり書きました。

それをまた基礎にして、私の持つてゐる資料を全部さらけだし、全国的な関連の上に詳しく京都の新劇運動の歴史を書いたのが、先に申した雑誌「演劇と会議」に四回連載したものです。なぜ私がそういうことをしたかと申しますと、もうひとつの大きなきっかけがあります。一年は「山本宣治先生の五〇周年記念祭」が京都であり、う訳で私の新劇運動の始まりが京都から

その呼びかけで、遅ればせながら参加いたしましたが、私は大正一四年から一年間同志社大学での最後の学生生活を、山本先生について生理学の講義をうけました。

大正十五年三月大学の宗教科を終り大学院へ進むことになつていて、が三月の学年休みで大阪の自宅へ帰ります。しかも舞台を組んだのは大学内

が、三月の学年休みで皆帰宅して三月二八日、山本先生は強引に学校から辞職願いを強要されて、退職されました。学生は四月に帰校してから、これを知ったのですが、どうにもならない。

同志社演劇部のスタート

ところでは芝居の方は、大正一五年頃に新劇が最初のスタートの年でした。私は同志社の大学院に演劇部をつくつていたころです。

そのころ、京都と大阪に築地小劇場

が出来ました。というは大阪朝日会館が出来て、そのこけら落しに招かれたので、一日は京都でも公演をする事になったのです。今はございませんが、大阪朝日会館はその後（戦前）我々の演劇運動に大きく貢献してくれたものです。さて上演されたのが、フランスの革命劇で「ロマン・ローラン」の書いた「狼」という群衆劇で、労働者も農民・兵隊もたくさん出ます。築地の俳優だけでは足りない。そこで関西の、学校演劇部からエキストラとして出よ、との事で私も志願して同志社から出ました。それが私の新劇に参加した第一歩でした。私はそれからずっと築地系の芝居をやつてまいりました。そういう

青服劇場

その後、昭和になつてから、この芝居を同志社の演劇部でやつた事があります。しかも舞台を組んだのは大学内

のチャペルで、フランス革命劇「狼」を堂々とやりました。見ていたアメリカの牧師が芝居が終つてから、手を振つて握手を求めて来ましたが、恐らく芝居の内容が解らなかつたのでしよう。

昭和四年三月五日、山宣、兎刀に斃る。私はその日まだ京都にいました。

三月六日の朝、その頃円山食堂という徹夜営業している大衆食堂がありまして、よく新聞記者なんかが集るところでしたたが、そこで五日の夜から飲み続けてすっかり酔いつぶれて寝ていると、朝日の記者が電話をかけている。うつて聞いてみると山宣が殺されたとのことで、「おいつ、しつかりせんか」と私を起してくれた人がある。それは東京の第一書房の山本さんだった。

それから状勢が急にはげしく変つてきました。私も只芝居をやつてゐるだけでは済まなくなつてきた。そこで東大と同志社の人々が中心になつて、文化関係の人々が集りましてね、劇をやる人、映画、音楽、文芸等やる人が集りました。それぞれグループをつくりていまつたが、芸術家の卵たちで「私達も芝居をやる権利を守ろうじやあないか、東京には左翼劇場というのがある。それと同じ方向へ進む私達の劇団を造ろうじやあないか」と出来たのが青服劇

場なのです。そして日本中の劇団を集めた「日本プロレタリア劇場同盟」を組織し我々もそこへ入る」と決めました。青服というのはソビエートの労働服でそれこそ我々の劇団に相応しい、それと我々の劇団の名前にいただいたわけです。

山宣の追悼劇

そこへ山宣さんの三・一五労農葬の話が出来ました。弾圧はきびしいだろうが積極的に参加しようとの体制の事などを協議しました。「遺骨故郷へ帰る」三月六日の「花やしき」の様子を安田徳太郎氏は次のように記している。「弔問客は陸続として見えた。三・一五事件被告の細君、労働組合員、旧労農党员や学生諸君がみえた。訪問者はその関所でいちいち誰何された。全国の同志から打たれた弔電は千余に達した」(佐々木敏二著「山本宣治(下)」365頁より)

昭和四年三月十五日は東京、大阪、京都をはじめ全国的に「山宣、渡政、労農葬」を行うとの計画がありました。それに参加するように京都の文化団体の幹部に召集があつたのは労農葬の日より一週間前でした。私も行きましてが何しる表は警察の閑門があり、スペイがウロウロしているので入れない。仕方がない、花やしきの裏山を越えて裏から入りました。そのまま一週間花やしきに繩詰です。その間我々は

山宣追悼劇をやる事になり、労農葬の前夜、山宣の日常使つていられた二階の大広間の正面に写真をまつり、よこのわざか二畳ほどの間で「山宣殺害される」の劇を我々青服劇場で上演しました。劇の最後に山宣の位牌を持って「治安維持法反対」の演説を入れました。舞台も観客も一緒に泣き乍ら演じたものです。

翌日の山宣労農葬の映画とりは、カメラが二台ありましたので、一班二人

二班でとる事になり、私はプロキノの松崎ケイシ君と組み、彼がカメラを廻し、私がそばについてとることになりましたが、至るところにスペイがウロウロして撮りにくい、何とかして「花やしき」から宇治橋まで撮らねばならない。その路の中ほどに大きな茶屋がある、その前に路にそうて丁度、人間がすっぽり入れるほどの溝があった。そこに潜んであの行列を撮ったのです。

警察の眼をさせて先ばしりし、民家の二階からも撮りました。苦労したものです。今のべました、花やしきの芝居

の話や映画どりのことは我々の機関紙「プロ演」にくわしく書いているのですが、中央からは何故か一般に知らされ

ていいなかつた。だから私たちが芝居をしていなかった。だから私たちが芝居をし、映画を撮つたことは当時は誰も知らなかつたのです。後になつてそれが知れ、「あいつがやつたんか」と警察から追跡されるようになりますが、

さて青服の方ですが、次の五月一日のメーデーでひとつ公然と芝居をやろうじゃないか、という事になりその時のガ

リ版ずりのビラを私は持つてるのであります、「見よ、京都で初めて労働者農民大衆の芝居」と大見出しを書いています。

山宣追悼劇をやる事になり、労農葬の前夜、山宣の日常使つていられた二階の大広間の正面に写真をまつり、よこのわざか二畳ほどの間で「山宣殺害される」の劇を我々青服劇場で上演しました。劇の最後に山宣の位牌を持って「治安維持法反対」の演説を入れました。舞台も観客も一緒に泣き乍ら演じたものです。

翌日の山宣労農葬の映画とりは、カメラが二台ありましたので、一班二人二班でとる事になり、私はプロキノの松崎ケイシ君と組み、彼がカメラを廻し、私がそばについてとることになりましたが、至るところにスペイがウロウロして撮りにくい、何とかして「花やしき」から宇治橋まで撮らねばならない。その路の中ほどに大きな茶屋がある、その前に路にそうて丁度、人間がすっぽり入れるほどの溝があった。そこに潜んであの行列を撮つたのです。

警察の眼をさせて先ばしりし、民家の二階からも撮りました。苦労したもの

です。今のべました、花やしきの芝居

の話や映画どりのことは我々の機関紙「プロ演」にくわしく書いているのですが、中央からは何故か一般に知らされ

ていいなかつた。だから私たちが芝居をし、映画を撮つたことは当時は誰も

知らなかつたのです。後になつてそれが

知れ、「あいつがやつたんか」と警

察から追跡されるようになりますが、

さて青服の方ですが、次の五月一日のメーデーでひとつ公然と芝居をやろうじゃないか、という事になりその時のガ

リ版ずりのビラを私は持つてのであります、「見よ、京都で初めて労働者農民大衆の芝居」と大見出しを書いています。

青服劇場の人びと

昭和四年九月、東京の左翼劇團が開

(附記) 大岡氏に次いで、昭和一〇

年代に京大学生運動で活動、治維法違

反容疑で投獄された現立命館大学講師

・社団法人部落問題研究所理事長の藤

谷俊雄氏から滝川事件以後の学内の反

活動政策について鋭いメスを入れ、文化

活動がいかに圧迫、弾圧されたかについ

て体験を語られた。京都における文化

活動の上で貴重な体験談であったが、

紙面の都合で次号に掲載することにした。

藤谷さんははじめ、会員読者の皆さん

にお詫びいたします。

(係)

前号の文中、脱落個所がありますのでご訂正下さい。

(1) 四ページ二段十七行目「そのためには」のあとに「ある傾向に埋没して、自分でつくりあげた概念で」を挿入、十八行目「描くことを」につないでください。

(2) 他に一段、後の一行目「高橋申一」を「高橋由一」に。

三段六行目から七行目にかけて「四

国の自然と接した若い人たち」に直し

ていただきたい。

(石田昭子)

藤谷さんのお話

頃から軍国主義的ファッジの嵐が吹き荒れ初めまして日本のプロレタリア演劇は次々と弾圧、解散、検挙と繰り返されまして合法線上から姿を消すわけなのですが、本日はこれ位にして後日機会を得ましてお話を申し上げたいと存じております。

(以上)

(7) 昭和 56 年 7 月 15 日

燎原

新青服劇場について

前略、本誌『燎原』第十六号の記事に（六ページ三段）「青服劇場のころ」西村清之（三の誤り）氏の記事」を次の一文にかえます。

当日、山田氏から品角君について何か一言といわれ、私たち「新青服劇場」数名の文工隊が、當時農村オルグとし单独で奥丹方面で活動していた品角君と宮津であったこと、ひとりボッソリユックを背おつて船を待っていた彼の姿が、今でも鮮明に記憶にあることを話しました。

青服劇場というのは、戦前プロレタリア演劇同盟加盟の京都の劇団で、大岡欣治氏や吉田義夫氏がよくご存知のはずで、戦後一九四六年に京都市役所の二階で、演劇教室が七回十回位実施され、その時の先生は北川鉄夫・吉田義夫・杉村長三郎・毛利菊枝さんの「話し言葉」とか先般河豚（ふぐ）でなくなつた阪東三津五郎（当時箕助）さんの青年歌舞伎の話とか、職種は自立劇団の人たち、大学の劇研、日本電池、島津製作所、市電労組の劇団、これらは驚くばかりよく出来る劇団でした。

私は醤油公団のズカガールの好きな娘さんたち十名ほどの中から、職場の文化運動の一つとして数名をこの教室へ送り込んだ。私がこの演劇教室の存在を前もつて知つたのは中井あいさんから「市役所で演劇教室やるえ、なかよさそうえ。」と教わったのがはじまりです。

この教室をこのまま終らすのは惜しいということで、党関係の者で一つの劇団を組織した。このなかにはギニョウルもできて、東京のグループを見習つたこともあるし、演劇の面から文化運動をやろうということになり、戦前弾圧に抗して演劇運動をやつた「青服劇場」の伝統を生かして、新青服劇場と命名したのです。

演出は北川鉄夫氏と、京大の田中勝氏、私が財政と組織部とを兼ねたような仕事を受持つて、第一回旗上げが奥丹公演、文化工作隊でした。昭和二三年から二四年の八月「日本のカッパ」をやり、その他田中弟、同大劇研から男女各一、私の職場から女一、官報において私の町内に住む「へそ子役」の娘さん、島津から谷君ほか沢田君、大体これくらいのメンバーでした。

新青服はその後、現在の「京芸」「人形京芸」に発展しているのですが、その第一回の移動公演最終日程は伊根でしたが、その船を待つとき、農村オルグをしていた品角君に会つたのでした。彼は我々の更に先を開拓していくよい働き手で、敬意を含めて私は「オーライ品角!」と呼びかけたのです。

この場に吉田義夫氏は来ていません。北川鉄夫氏が「夕刊京都」の講演で奥丹を廻つておられ、最終回のこの日宮津で落合、伊根に向いました。

ストライキ応援の公演では、争議団によろこばれたり、奥丹後地方の青

年組織中心は党員諸君だった。)の「夏の家」が、天の橋立の松原の中につて、ここで三晩ほど泊めてもらつたり、公民館で芝居をしてそのあとそこで泊めてもらつたりして、旅館代は支払つた覚えがない。とにかく赤字を出さなかつた。めざしを鮑に、おいし前彈圧に抗して演劇運動をやつた「青服劇場」の伝統を生かして、新青服劇場と命名したのです。

長文になつて恐縮ですが、あの新青服の第一回公演は、京都の演劇史に是非一つ残してほしいものと思います。

男女各一、私の職場から女一、官報において私の町内に住む「へそ子役」の娘さん、島津から谷君ほか沢田君、大体これくらいのメンバーでした。

品角先生の想い出（追記）

石田昭子

先日は「品角一郎さんの思い出話を語る」研究会に参加させていただき、諸先生、諸先輩の方々の生々しい思い出を聞き、生前よく話されていたことを再認識し、この失つた穴の大きさを痛感しました。

忌明けを済ませたあと、永年、いっしょに仕事をしてた部屋をかたづけましたが、その船を待つとき、農村オルグをしていた品角君に会つたのでした。彼は我々の更に先を開拓していくよい働き手で、敬意を含めて私は「オーライ品角!」と呼びかけたのです。

ここで活動方針を出し、展覧会活動、子供会の美術教室、写生会、理論学習、文学会やアリアジム写真集団の仲間との共同取材、共同野外展など、めまぐるしく活動したものでした。計画し、実践し、必ず大きな成果を得たことに自

からたくさんの花をカンパされ、それを個別訪問して売りながら、今晚芝居見に来て下さいと宣伝、争議団の人びとによろこばれたり、奥丹後地方の青

信と誇りがあふれる。充実した気持でいっぱいだった日々を想いおこしてました。

やはり深夜に及んだ会議のあと、急いで帰る仕度をしている私に、「石田君、今日は話しひかんと……」といって、五番町の近くの飲み屋へ連れていて、私もまた、東京のグループを見習つたこともあります。しかし、演劇の面から文化運動をやろうということになり、戦

いでの理想となりました。できるだけ多くのことを吸収して勉強しようと思つなければならぬ質問でした。その気持ちや態度がストレートに表現され、妥協を許さないきびしい作品に勉強されたきびしい生活態度が、何よりも若い私には魅力でした。作品にはその気持ちや態度がストレートに表されています。

「石田君、絵を描いていいのか。描き続けること自体が大変なことやで……」、いちばん基本的ではあるが、生涯悩みつづけなければならぬ質問でした。

若い頃、逆境の中で戦闘的に、貧欲に生き、人生よく話されていたことを再認識し、この失つた穴の大きさを痛感しました。

それだけ聞いて安心されたのか、もう遅いからといって、タクシーで家まで送り届けてもらいました。それ以来、制作で引き詰った時、家の雜用で振りまわされている時、その時のこと思い出します。

「頭で絵を描いたらあかんで」「何を描きたいのや?」「小手先の技巧は役に立たんや!」「もっとモノを見んと……」と、次から次へと叱られそうですが、悲しみを克服して、いい作品を創らなくては、と自分を叱咤している毎日です。

父は殆んど日記類を残していない。
戦前は官憲の弾圧の資料となることを恐れての考慮から。戦後は多忙に紛れることであろう。ただ、一九五〇年からの二年間、ときに応じて日記風に筆を走らせている。その契機となつたのは、河上肇先生の奥さんから贈られた先生の「獄中日記」にあつたことを自ら記している。

そのなかから、二、三の断片を引用しておく。

五〇年の一月二十日

「今日の新聞、ラジオは、社会党問題、共産党問題で賑かである。

即ち、社会党では十六日以来、第五回大会が開かれていたが、開会当初から副議長選挙などに左右両派抗争を続け、左派わざかに優勢を示していた。こうなると右派の出方は決つていて。西尾、松岡のあの連中は、もともと階級的利益も戦線の統一も小異を捨てて

父は殆んど日記類を残していない。
戦前は官憲の弾圧の資料となることを恐れての考慮から。戦後は多忙に紛れることであろう。ただ、一九五〇年からの二年間、ときに応じて日記風に筆を走らせている。その契機となつたのは、河上肇先生の奥さんから贈られた先生の「獄中日記」にあつたことを自ら記している。

そのなかから、二、三の断片を引用しておく。

五〇年の一月二十日

「今日の新聞、ラジオは、社会党問題、共産党問題で賑かである。

即ち、社会党では十六日以来、第五回大会が開かれていたが、開会当初から副議長選挙などに左右両派抗争を続け、左派わざかに優勢を示していた。こうなると右派の出方は決つていて。西尾、松岡のあの連中は、もともと階級的利益も戦線の統一も小異を捨てて



父(兼光)の 想い出 (1) 細迫朝夫

ものが五名づつになることにはならないで一名づつになるような事になるのだから打撃は大きい。労働戦線の分裂ほどにくむべきものはない。

共産党は十八日、十九日、第十八回拡大中央委員会を開いた。

あたかもコミュニケーションの野坂君批判が大きな渦紋を引き出している時だから、まことに意義重大な会議である。今日新聞の伝える所を見るに大体わがいる間は異分子との同居もマアマアといとわぬが、自分らが支配権を失うやいなや、多数決で負けたからとて人の下になら絶対につかぬ。

総同盟の最初の分裂(左翼の除名)、大正十五年十月廿四日の労働農民党中央委員会で後の社会民衆党や大衆党的連中が分裂していったと全く軌を一にしている。

山川さんや鈴木君などが彼らの本質的なやり方を知らない。社会党で多数

を占めれば、自分らが指導権をもつた右派をも抱き込んだ幅の広い階級的、社会主義的政黨が出来上がるかと思つてはいるが、彼らの甘い夢も遂に破れた。

鈴木君のベソ顔が見えるようだ。

同年九月十一日

「八日前十時(日本時間九日午前二時)サンフランシスコに於て、対日講和条約調印式が行われた。調印する国四十九。非調印国は、ソ連、チエコ、ポーランド三国。

この日講和条約が調印を終るや三時

みつ光 かね兼 細迫 のあしあと

(一八九六年一一月二八日—一九七二年二月一日)

西村(現山陽町)

山口県厚狭郡厚

次男として生れる。

山口中学・第三高

等学校を経て、一

九一九年東京大学

法学部に入学「新

人会」に参加、二

年卒業と同時に弁護士となり自由法曹団に加入、翌年大阪にて小岩井淨氏

らと共に「労農救援弁護士として活躍、

二六年一〇月「労働農民党結成と同

時に書記長に選ばれ、大山郁夫委員長

と名コンビのもとに、対支非干渉運動

翌二七年府県会議員選挙、さらに二八

年二月の普選によるさいしょの衆議院

議員選挙などで活動、その成果が注目

された。

一九二八年三月一五日の共産党大彈

庄の一環として、全年四月十日労働農

民党は結社を禁止される、のち新党立

成運動困難な中で、複雑な経過を辿つ

て二九年八月、大山郁夫、上村進、ら

と連名で「新労農党樹立を提案、贊否

論の渦巻く中で、全年十一月創立大

会をひらき、合法政党として、大山郁

夫委員長のもとに書記長となる。しか

し、新労農党が当初の意図に反して民

主勢力の戦線統一の障害となることを

憂え翌三〇年八月党の解消を提唱し除

名処分をうけた。

このあと引つづき労農救援弁護士とし

て活動をつづけ、三一年六月結成の解

放運動犠牲者救援弁護団に参加、日本

原 燐

間の後に、日米間の安全保障条約が調印せられた。実にべらぼうなものである。期間の定めなき米兵の駐屯だ。横須賀、佐世保の軍港の外立川等十ヶ所の飛行場の軍事基地、鉄道港湾道路も勝手に使用する。こんな独立国があつたまるか。

岡本一興君等九日、シスコ会議反対を獄中で叫んで読書禁止十五日の懲戒を受く。でも叫ばずには居れぬ。下松、宇部、山口、下関等でシスコ講和反対のビラまで数名冤逮捕せらるている。驚いた民主主義だ。

同年十月二十日

「…………十六日大山郁夫氏病転を起して杖をついて参議院壇上に立ち両条約のボッダム宣言違反を叫ぶ。まことに憂國の志旺なるかな。加餐自愛を望むや切。」

一九五二年一月三十日

「…………僕の小野田市長の終末期（敗戦の昭和二十年八月十五日から同年十二月）は、やはり占領軍と交渉をもたねばならなかつたが、僕は酒などねだりに來た奴に対し一本も出してやつたことがない。

『私は市民に与える切符はもつていい。アイムソーリー』私の返事だった。彼らの要求を拒絶し得た市長が果しるが、君達へ与える切符はもつてない。アームソーリー』

私の返事だった。

『私は市長が果して他に一人でも居たであろうか。ここにも『勝抜け』が居る。』

同年六月廿七日

「日本社会党（左）に終に入党、立候補を受諾した。随分世人は不思議に

思うだろう。」

十月一日、いわゆる独立後、最初の衆議院選挙。山口第一区で立候補、次点で落選。

同年十月二十五日

「…………共産党的全滅は痛ましい限りである。

大衆の要求、希望の上に立たない示威運動や火薬瓶騒ぎの罪。分派の罪は特に深い。

「…………左派社会党山口県執行委員会なるものが僕に対して平和擁護山口県委員会の会長を辞任せよという。いわゆる共産党と一線を画するという筋だ。いやな奴等だ。ここにも勝ぬけ人種の標本がある。」

(2) 贊いた革新統一路線

父の戦后堅持した政治路線は、革新統一路線にあった。それは、父が参加し、活動した平和団体、国際友好団体にも示されている。例えは、いくつかに分裂した日ソ関係の団体についても、生涯日ソ協会で一貫した。

それにもまして、端的な表現は、社

会入党と党内における平和同志会の組織化に見出しができる。

独立と平和、自由と民主主義のための大同団結をこの談話は訴えているが、その統一戦線における味方の陣列の分析、個人の役割などの判断にたつた左派社会党への入党の決断であつたと思われる。さきの決断とともにモズク活動との関連で、「随分世人は不思議に思うだろう」との言葉にその感慨を託したのである。

戦後における父の政治路線は、戦前当選したが、戦時中の市長（翼賛会支社長）在職の故をもって「公職追放」中の身であった。この決断を私には伝えてきたが、私も公にすべき性質のものでないと察して心のうちに伏せてきた。いまも、公にしてよいものか、私には自信がないので伏せておく。

（55・10・15）

（次頁第三段へづぐ）

追放中、主として弁護士として占領下の政治弾圧に抗して席のあたたまるまもない日々であった。引用を略した

が、日記的な記録の大部分も、それが活動で占められている。

公職追放が解除されて間もなく上京。帰郷後、次のように記している。

五二年三月廿九日

「…………上京中、労農党は全代議士が集つて歓迎会を開いて呉れたし、総評の高野実、島上善五郎君らに会つた

効果もよろしい。鈴木茂三郎君には自宅にまで訪れたが遂に会えなかつた。

それもよかろう。

大山郁夫氏はまことに久し振りで会う。思ったより元気で、意を強うする。」

当時の労農党の機関紙『労農新聞』は、父の談話記事をのせているが、大見出しを「大統一のために」としている。

独立と平和、自由と民主主義のための大同団結をこの談話は訴えているが、その統一戦線における味方の陣列の分析、個人の役割などの判断にたつた左派社会党への入党の決断であつたと思われる。

著書に「労農民黨の精神と主張」（一九二七年「改造」、労農民黨は解消すべし」「一九三〇年一〇月改造」

なお文献として「河上肇自叙伝」全文（一九四七年、八年記念事業会刊編「大山郁夫伝」一九五六日本社会党県本部「細迫兼光さんを偲ぶ」一九七二年刊

青木書店刊、塩田庄兵衛編

「日本社会運動人名辞典」より――

▶ 隨想 ◀

(7)

海外侵略の足音

住 谷 悅 治

日本は一九三一年（昭和六年九月一八日）に公然と満州侵略に着手し、明くる三二年（昭和七年一月二七日）には上海攻撃を開始した。そして三七年（昭和一二年）七月七日の日中戦争は日本を第二次世界大戦のどろ沼に落し入れた。日中戦争の幕が切って落された。

この当時の思い出は悪夢というか、私たちの世代の痛根やる方ない暗い思い出に満ちている。

私が同志社を辞めたことは、本誌第七号（昨年九月号）に書いたが、思想の弾圧と軍靴の響きは、生活のあらゆる面にヒビシと感じさせられた。上海事変が勃発し、私は宇都宮連隊に入るよう召集令状が来た。

私は大正十一年（一九二三年）一年志願兵として将校にはならず、下士官としての軍籍があつた。農業で鍛えた私の身体は甲種合格の刻印がおされていた。召集され上海事変の一兵卒として戦地へ送られておれば、その後の私的人生はどうなつていたか、多分一片の白骨に化していたことであろう。この当時の秘話を、ちょうど当時の法部長であつた林要さんが「同志社時報」第一五号に書いている。林要さんが私が召集令状がきたと聞いて、さつく配属将校として軍事訓練を担当

していた某大佐のところへ行き「スミヤは大学で必要な教授であるからなんとかして欲しい」と頼みこんだという。

その大佐は相当に思想問題にはうとい軍人であつたらしく、これが幸いしたのか、「それならスミヤは本学の卒業生に必要な教師である旨を書いてこられた。いま思えばこの裏面工作が効を奏したかどうか判らないが、私は前から痔が悪く、入隊時の検査で、『この非常時にバカヤロウ』と尻を叩かれて即日帰郷となつた。

私は当時、林さんのこの向う見ずの友情を知らず、勿論配属将校とも交友はない。痔がわが生命を救つてくれたものと思つていた。痔はその後も悪化し、脱肛といううもでの松山高商にてからも痛んで苦しみ道後温泉に毎日入浴するようになつてから、知らぬ間に癪つてしまつた。

父（兼光）の思い出（八面）

その他の活動と経験について、このうえない「欣び」であった。

父は、戦後、この問題について、戦後をどう生きるかが、ひとの評価をきめる、と云つていた。

いづれ、それぞの局面をめぐつて、具体的に述べ直したい。

どんなに過誤と挫折にみちた戦前の経験であろうと、多くの誠実で献身的な活動に従事した先輩たちの経験を基礎にして、はじめて戦後の運動はすすめられたし、そして革新統一戦線が切実に求められる現在、そこから最大限の教訓を汲みとるべきではなかろうか。

この過程で、もちろん、重大な過誤も避けることはできなかつた。そのな

かには、今日なお評価の定らぬものもあろう。それはともあれ、いづれの局間がかかり、腹膜炎をおこしかねないといわれたが、切り跡を一部空けておいて、肉の盛り上がりを待つようにしない。

なかでも、無産政党時代、最も執拗

は醜くへこんで、いまだに痛々しい跡を残しているが、中国への侵略戦争には「痔」によってわが身を守られ太平洋戦争の思い出は、腹の傷跡として、肉体に刻み込まれた。

私は老いて痩せ、シミのついた老骸となつてゐるが、この肉体に刻み込まれた戦争の思い出は消えることはない。

いま、ふたたび、軍備拡充の声と動きを感じるようになつた。

痛根の歴史を絶対にくり返してはならない。明治、大正、昭和と生き抜いてきた私の人生の歯車は、ボロボロになつてゐるが、平和の日々を、戦後長く体験したことは、私の人生にとってこのうえない「欣び」であった。

父（兼光）の思い出（八面）

その他の活動と経験について、このうえない「欣び」であった。

父は、戦後、この問題について、戦後をどう生きるかが、ひとの評価をきめる、と云つていた。

いづれ、それぞの局面をめぐつて、具体的に述べ直したい。

どんなに過誤と挫折にみちた戦前の経験であろうと、多くの誠実で献身的な活動に従事した先輩たちの経験を基礎にして、はじめて戦後の運動はすすめられたし、そして革新統一戦線が切実に求められる現在、そこから最大限の教訓を汲みとるべきではなかろうか。

この過程で、もちろん、重大な過誤も避けることはできなかつた。そのな

かには、今日なお評価の定らぬものもあろう。それはともあれ、いづれの局

間においても、せいいっぽい誠実に生

迫兼光先生の御苦勞を嗣子の細迫朝夫先生に語つていただくことにします。

御愛読を期待します。

(K)

第二回世界大戦がはじまつた昭和六年十二月八日には、私は松山市の中赤病院で盲腸の手術をうけた。盲腸は手遅れに近く、相当手間と時間がかかり、腹膜炎をおこしかねない

凌ぐための帰郷、一九四二年市会に推されて小野田市長就任、在職中敗戦を迎えることとなつた。

この過程で、もちろん、重大な過誤も避けることはできなかつた。そのな

かには、今日なお評価の定らぬものもあろう。それはともあれ、いづれの局

間においても、せいいっぽい誠実に生

迫兼光先生の御苦勞を嗣子の細迫朝夫先生に語つていただくことにします。

御愛読を期待します。

戦後、第二の反動の波高い現在、労働戦線の統一と团结、民主勢力の結合を急務としているとき戦前、戦後、その第一人者として活動された。故細迫兼光先生の御苦勞を嗣子の細迫朝夫先生に語つていただくことにします。

御愛読を期待します。

(K)

戦後、第二の反動の波高い現在、労働戦線の統一と团结、民主勢力の結合を急務としているとき戦前、戦後、その第一人者として活動された。故細迫兼光先生の御苦勞を嗣子の細迫朝夫先生に語つていただくことにします。

御愛読を期待します。

(K)

ソ連脅威論はナンセンス

西宮市 井上 喜代松

戦前戦後の見直しについて

和田洋一

先日、沖縄で、核廃絶のための国際集会があつて、沖縄にゆかりの深い井ノ口兵庫県議が出席されたが、その報告によると、アメリカの巨大な核積載潜水艦の、勇気ある設計者が明らかにしたところによると、

その潜水艦は深海に六ヶ月も沈んでおり、全太平洋岸の、日本を含め、要所々々にはりめぐらされた情報をキヤツチするべく、時々浮び上るとのことであり、いざという時には、先制核攻撃を行うことになつていているとのことです。

全然立ち遅れているソ連は、手も足も出ない状況なのです。軍事通なら常識でしようが、私にしては初めてでした。

ソ連脅威論を大上段にふりかざしての軍備増強は、目的は別とては、ナンセンスといふものです。

(『燎原』第一六号一面の記事に読んで)(上京区大宮通鞍馬口下る、東和企業内)

黙っておられない

『蟻川記念館』を!

足羽 徳

都議選に
北牧氏来援

東京 石黒周三

『燎原』が毎号とも実に充実した内容で編集され、心から敬意を表します。またまた戦争の足音が聞えるようになりますので、一層のご活動を念願いたします。

責任研究所の石田氏には仕事を通じてお世話をなり、且つ面倒見て頂いてお

ります。
『燎原』の御送附ありがとうございます。御手数のかかることだと思いますが、ひきつづきよろしくお願ひします。会費をお送りします。例会に顔を出さない会員で申訳ありません。(左京区北白川仕伏町八の二)

『燎原』ありがとうございます!

左京 川口 是

『燎原』への結集を祈ります。
(左京区下鴨前萩町六)

横須賀へ抗議に!

大阪 大道俊

前略、五月五、六、七、の三日間、岡山で日本平和委員会の第三回全国大会に出席、二日目の婦人集会で横須賀で『母と子の座り込み』の激励に行

くことが決り、七日岡山を立ち、横須賀に参り、米海軍基地司令部へ抗議に行くやう、共に座り込んで街頭署名や訴えに参加し疲労して帰ってきました。

テントで寝てみて、闘いの如何にキビシイか、三十年間ダマサレつづけてきた核の火薬庫の番人に仕立てられて自分の姿に怒りとやるせなさでいっぱいです。大変返事が遅れて申訳ありません。お許し下さい。

松山事件の再審に
ご協力おねがい

京都 大原健次

新憲法が制定されてから三十余年、未だに民主主義が定着しない日本ですが、基本的人権を国民のものにする手がかりの一つとして、冤罪の再審事件でたたかつてゐる無辜の人のために一臂の力をおかしくださいますよう切にお願いしてやみません。

(左京区高野玉岡町一、松山事件京都守る会)

余談になりますが、蟻川さんのお宅も借家の老宅（浪宅か）がありました。が、六月三十日で家主に返還されました。かつての財団法人研究所の構想が実現してから、今『蟻川記念館』になつたものをと残念な氣も致しましたが時は容赦なく流れ去つて、心あるものは将来に備える努力を払わなければなりません。

もともと関西地方に拠点をほしく、北牧さんの義理にすがつて、その拠点の核になつて頂くよう、くれぐれもお願いしておきました。(東京・千代田区九段北四一―二六 治安維持法国家賠償同盟)

同盟運動の前進にとつては、どうしても関西地方に拠点をほしく、北牧さんの義理にすがつて、その拠点の核になつて頂くよう、くれぐれもお願いしておきました。地の北牧孝三氏におめにかかり、同盟組織の問題でいろいろ話話し合いました。氏は激しく鬪われている東京都議選を座視するに忍びずと上京された由、その勇気と熱情にホトホト感心いたしました。

皆さんのご健康を！

京都 南井吉五郎

先日の例会には健康勝れず不本意乍ら欠席残念であります。

何分八〇の坂をこえるとあちこち故障が起ります。むづかしい書物は読めません。近頃は各新聞紙の読者の投書らんで老若男女の御意見を読むのを楽しみにして居ります。

"燎原" 創刊号より

宇治市 松村啓一

"燎原" 創刊号、第一二

号までの分と第十三号以後一年分の誌代をお送りします。（宇治市蛇塚八〇清栄マンション三〇五）

員 友 だより

会 費 と し て

京都 儀我壯一郎

一九八一年分の会費として金三〇〇〇円お送りします。（伏見区深草中之島二六）

"燎原" 発行費の一部に

京都 宮城泰年

"燎原" 発行費の一部にお入れ下さいます。（左京区聖護院中町）

"燎原" 每号ありがとう

京都 阿川寛直

"燎原" 每号ご送付ありがとうございます。（右京区花園巽南町一）

誌代を二年分

舞鶴 田岡喜作

"燎原" 誌代五五年分と五六年度分をお送りします。何卒よろしく（舞鶴市字和田五四二）

"燎原" の誌代として

東京 浅井みち

"燎原" 誌代としまして三、〇〇〇円也お送り致します。よろしくお願ひします。（田無市芝久保二一八一一二二五七）

革新統一を祈るのみ

東京 平林 清

"燎原" 誌代としまして三、〇〇〇円也お送り致します。よろしくお願ひします。（東京都世田谷区上野三一四一八）

***** 鎮夏特別カンパ今は唯革新統一を祈るだけです。（東京都世田谷区上野三一四一八）

領収証に代えて

事務局より

会費（年額三、〇〇〇円）誌代（

全二、〇〇〇円）、暑中見舞（三、〇〇〇円）カンパなど、左記の諸氏から頂きました。有り難う！（順不同、敬称略）なお、金額、ご氏名に誤りがあればお手数ながらお知らせください。

記

会費（年額三、〇〇〇円）誌代（

全二、〇〇〇円）、暑中見舞（三、〇〇〇円）カンパなど、左記の諸氏から頂きました。有り難う！（順不同、敬

おねがい

きびしい暑さにお障りありませんか
誌上「暑中御伺い」の名刺広告、お
よび会費、誌代未納の方は御払込
みをお願い申上げます。
なお、御氏名、金額等に間違いがあ
りましたら、お知らせ下さいませ。
(編集部)

源孝強 (東山)

伊吹良太郎 (上京)

足羽徳 (左京)

中村富三郎 (伏見)

杉山茂 (宇治)

南法律事務所 (伏見)

田北亮介 (北区)

日中友好協会 (左京)

平林清 (東京)

吉村克之 (中京)

南井吉五郎 (中京)

向井智枝 (左京)

杉山幸雄 (大阪)

杉山茂 (宇治)

南法律事務所 (伏見)

田畑忍 (上京)

医療事業共同組合

足鹿覚 (鳥取)

法政大原社研 (東京)

細井友晋 (上京)

足鹿恒範 (東京)

西海太郎 (東中)

堀芳次郎 (加茂町)

京都第一法律事務所

斎藤雷太郎 (上京)

細迫朝夫 (北区)

寿岳章子 (左京)

木又謙二 (左京)

斎藤雷太郎 (上京)

細川三西 (東山)

梅田穰 (逗子)

藤田二朗 (東山)

酒谷義郎 (北区)

西尾雅七 (左京)

田中一男 (上京)

斎藤雷太郎 (上京)

1981年 夏 暑中御見舞申上げます

立命館大学教授 電鴨左京区田中閑田町二一七 電話 七五二一〇二四七〇三番六	立命館大学教授 塩田庄兵衛 電話 四六一・ハイツ二四七〇三番六	和田洋一 電話 左京区下鴨下川原町四八六番	斎藤雷太郎 電話 上京区今出川通千本西入る四六一・三八七五番	岡谷元治 電話 左京区田中下柳町一一九番	松山事件 京都守る会 電話 七一三〇六六番
立本寺住持 電話 四六一・一〇六七番	立本寺住持 細井友晋 電話 四六一・一〇六七番	糸井一 組合役員 電話 北区上賀茂一本山三八九番	杉山茂 医師 電話 宇治市○広野七町四桐二一生谷六一八番	細迫朝夫 医師 電話 北区グ衣四六三一ハ町三四ツ二番〇	立命館大学教授 天野和夫 電話 四六三一九五九町一一番
会社員 電話 ○七五二一〇二三一六三一七番	清永定平 電話 ○七九〇一六三一七番	矢野恒範 電気工事店 電話 右京区三一三二東側町四二七五番	槙正博 電話 宇治市○広野七町尖山二の八六四三八番	寿岳章子 電話 向日市上植三一七四四一六番	源孝強 電話 五四一・一七六二番
京都医療事業協同組合 電話 右京区三設西院久田町九 一會館久五田町八五七三番	京都医療事業協同組合 九条診療所 電話 南区東九条御一七町二五八八番	井上喜代松 団体役員 電話 ○七九八三一五四地三二一〇三四番	葵タクシー株式会社 代表取締役 蟹江邦彦 本社 伏見区竹田久保町 63 の 5 電話 641-7124 番 自宅 東山区宮川筋 5 丁目 325 電話 531-5657 番		

1981年 盛夏 暑中御見舞申上げます

松本廣治 <small>電話番号：〇七二八九一六一三二七〇一六一八番</small>	鴨脚光増 <small>大阪市西淀川区七七三野六三一里四一五三一丁番 電話番号：〇六四一四一三〇一八番</small>	京都（きよう）に“煙”あり <small>1965年創刊只今40号 戦前日本プロレタリア文化運動の生き残り10名（68～78才）が出している異色の同人誌、埋れた青春像の発掘を柱に詩・歌・小説・エッセイもあり、各地、各界、各層からの便りを“声”欄に収めているのも特色</small>	
--	---	--	--

代表委員寺嶋二郎 <small>大阪府東大阪府職員大組合前組合府氣附内</small>	高田鉱造 <small>大阪府不當解雇反対同盟 大阪市南北六森区町西三四丁満一四五三〇七番 電話番号：〇六〇一四一七六二七</small>	「煙」同人社 <small>京都市中京区西ノ京南円町71 児玉誠方 電話 京都（075）811-7646番 振替 京都 15653番</small>	
---	---	--	--

京都中央法律事務所 <small>中京区鞍屋町二条下る 第2ふや町ビル5階 電話 222-0461番(代)</small>	京都南法律事務所 <small>伏見区深草西浦町7丁目67 ダイケンジョアビル3階 電話 643-3373(代)</small>
弁護士 <small>筋立明 中島晃 久米弘子 中山福二</small>	弁護士 <small>所長 平田武義 岩佐英夫 中尾誠 田中伸</small>

京都第一法律事務所 <small>中京区衣摺夷川上る吉田ビル3階 電話 211-4411(代)</small>	柴田茲行法律事務所 <small>中京区丸太町通高倉東入る タカハシビル3階 電話 256-3971(代)</small>
弁護士 <small>稻村五男 川中宏 渡辺哲司 加藤英範 村山晃 森川明 村井豊明 参議院議員弁護士近藤忠孝 府会議員弁護士弁護士渡辺馨</small>	弁護士 <small>柴田茲行</small>